

週休3日制について

2023. 3. 14

経済競争や国際競争などと言う。その国の輸出品を増やして、収益を高めると言う競争である。これが行き過ぎると、どこも、たくさん輸出品を作って、儲けようとなる。そうすると、供給が増えて、価格が安くなる。そして、給料が下がる。昔のある教派のヨーロッパ人は、質素にしつつよく働いたという。ウェーバーよれば（『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』）、Arbeite hart in deinem Beruf（汝の職業に熱心に働け）と言われていたらしい。たくさん働けば、給料は下がるが、物価もまた下がる。デフレと言うが、豊かといえば豊かだ。ただ、競争に勝つところと負けるところがでてくる。そういうわけだから、働きづくめの国際競争は、労働戦争と言えるかもしれない。

もし、それが始まって、財産のある人は、それに参加せずに済むだろう。das Ausruhen auf dem Besitz「財産による休息」とウェーバーは言う。前に書いたように、お金がたくさんあるほど、自由にできる。そういうわけで、そういうなかで、休みたきゃ、お金を使って休めとなる。zeit ist geld「時は金なり」とも言う。

それはどうかと（労働戦争を続けるのは）、ヨーロッパ人は、本来週に1日休みだったところを2日に増やしたのだろう。日本も真似をしたが、1つ問題がある。ある程度お金を持っている人は、休みが増えても問題はないが、お金を持っていない人が多く休むと、その人は豊かになれない。強制された悲慘な休日となる。貧しい人は、休みが増えることよりも、お金を稼ぐことを大事にすると思う。

そういうわけで、今、週休3日制が検討されているというが、それをそのまま取り入れてはいけない。強制された悲慘な休日が増えるからである。年収1000万円の方は、週休3日で、年収500万円の方は、週休2日、年収200万円以下の方は、週休1日と、それぞれの経済事情によって、決めれば良いと思う。国際的には、一人あたりgdpなどが高いところから、週休3日制を取り入れれば良い。そうやって、労働戦争を緩和できるのでないか。日本人は、週休2日を取り入れてから、給料が上がらなくなった。これを緩和するのも大事かもしれない。

エイゾウ
eizo@eizo09.com